

黒潮の遠い源である熱帯アジア。ここには、緑豊かな森が広がっています。大地に降り注ぐ多量の雨は森を洗い、落ち葉や土などさまざまな栄養分を川へ運びます。大きな川となった水の流れは、やがてその勢いを失い、海辺に広がるマングローブの森に流れ込みます。ミネラルや有機物を豊富に含んだ水は、ここで多くの生き物を育み、海へと手渡されていきます。

(3) マングローブ

熱帯から亜熱帯の川の水と海の水が混じり合うところに生きる植物をマングローブと呼びます。メヒルギやヤエヤマヒルギといった代表的なものや、シダやヤシの仲間などを合わせると、世界中では100種以上もの植物がマングローブと呼ばれます。

これらの植物は、酸素の少ない軟らかい土の上で、しかも海水につきながら生きていくために、タコの足のような根をはり出したり、木になった状態で発芽する胎生種子をつけるなど他の植物とは違った特殊な体のつくりを持っています。



▲熱帯アジアの水辺



▲ヤエヤマヒルギの根



▲干潮時のマングローブ

(4) マングローブの生き物たち



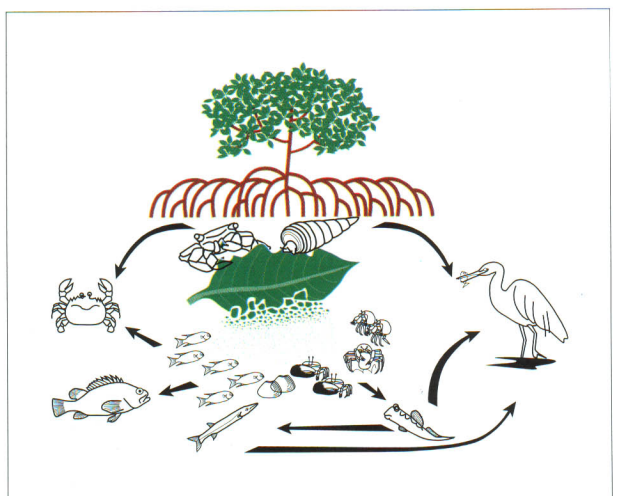
▲キバウミナ

マングローブの森の中には、さまざまな生き物たちが暮らしています。その生き物たちのエサの源になるのはマングローブの落ち葉です。落ち葉は、まず、キバウミナやカニなどのエサとなり細かく分解されます。それらは、

水中のプランクトンや小型の動物のエサとなり、さらにそれが魚などのエサになっています。

また、マングローブの根がつくりだす複雑な空間は、魚の稚魚などにとっては絶好のかくれ場所になります。

こうして多くの生き物たちが集まるマングローブは、熱帯の海の生き物たちにとって欠くことのできない大切な場所です。



▲マングローブの食物連鎖